

# 拓殖大学 大学院学位論文審査基準

## 国際協力学研究科

### ◆修士論文

修士の学位の授与に関して、学位申請者が提出した修士論文を、以下の審査項目について、主査1名と副査1名により総合評価を行い、可否（合否）を決定（判定）する。

1. 論文の体裁：確かな表現力によって文章が構成され、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っている。
2. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、オリジナルな課題設定が適切になされている。
3. 情報収集の度合い：当該テーマに関する先行研究についての知見を有し、立論に必要なデータや資史料の収集が適切に行われている。
4. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われている。
5. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確な結論が提示されている。

### ◆博士論文

博士の学位の授与に関して、受理審査委員会で受理を認められた学位申請者が提出した博士論文を、主査1名と副査2名以上で査委員会を組織し以下の審査項目について審査する。これに基づき研究科委員会出席委員の3分の2以上の賛成を得て決定する。論文の審査、試験及び学力の確認は本学学位規程第11条による。

1. 論文の体裁：確かな表現力によって文章が構成され、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っている。
2. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、オリジナルな課題設定が適切になされている。
3. 情報収集の度合い：当該テーマに関する先行研究についての知見を有し、立論に必要なデータや資史料の収集が適切に行われている。
4. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資料、作品、例文などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われている。
5. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確な結論が提示されている。（1～5は修士論文審査基準と同じ）
6. 上記の基準を満たした上で、当該学問分野における研究を発展させるに足る学術的価値が見出せ、また申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる。